

■杉村楚人冠(広太郎) 新聞人, 隨筆家, 俳人。百年先を見据えた名記者で, 新聞社の体制を次々と革新した。

すぎむらそじんかん

学問のすすめ1872=

明治6年政変 1873= 1歳:

和歌山城下谷町で, 旧和歌山藩士杉村庄太郎の子に生まれる。母はとみ。

初の民間工場1875= 3歳: 父が死去。以後, 母の手で育てられる。

大久保暗殺・1878= 6歳: 和歌山市雄小學校に入学,

明治14年政変1881= 9歳:

岩倉具視没・1883=11歳: 自修學校で英・漢・数学を学び,

秩父事件・1884=12歳: 和歌山中學校に入学,

帝國大學始・1886=14歳: 和歌山に帰っていた南方熊楠と交流, 直後に單身渡米した熊楠と文通。学級編成について校長と衝突,

國民之友始・1887=15歳: 中退し, 法曹界入りを目指して上京。英吉利法律學校(中央大學)邦語法律科に入り,

初の対等条約1888=16歳: 卒業。

帝國憲法公布1889=17歳: 手書き雑誌を交換していた西本願寺普通教古河老川(勇)が上京し, 同じ下宿となり, 以後親交。英語予備科に移るとともに, 國民英学会に入学し, アメリカ人イーストレイクに学ぶ。雑誌編集や投稿を始め,

帝國議會始・1890=18歳: {青年文学会}設立に加わり, 国木田独歩らと活動。國民英学会を卒業。

足尾鉍毒始・1891=19歳: 続けて, イーストレイク設立の日本英學院で学ぶ。脚氣に罹り転地療養後, 帝大受験勉強のため帰郷,

大本教・1892=20歳: 受験断念。仏教青年会の講習会参加中に心臓病となる。{和歌山新報}主筆として活躍。婚約するも,

郡司千島探検1893=21歳: 相手が病死してしまったため, {和歌山新報}を退社し, 再び上京。自由神學校(後の先進學院)入学。

日清戦争始・1894=22歳: 新仏教運動起こした古河らの大日本仏教青年会結成に参加し, 以後講習会運営等に携わる。

日清戦争終・1895=23歳: 鎌倉円覚寺釈宗演師のもとに参禅し, 鈴木大拙と知り合う。}_{仏教}{反省雑誌}{中央公論}に盛んに執筆。

白馬会・1896=24歳: 卒業。本願寺文学寮で舎監兼英語教師となり, 京都で母と同居。関西仏教青年会結成の中心となるが,

子規句歌革新1898=26歳: 文学寮の教育改革に失敗して, 退職し三たび上京。文学寮卒業生等と共同生活の家{聚星泊}を作り, 母も呼び寄せる。社会主義研究会に加入し, 幸徳秋水や片山潜などの知遇を得る。以後, 度々転居。

Bushidou・1899=27歳: 親友古河が死去。伊豆山相模屋の娘と結婚。境野黄洋らと仏教清徒同志会を結成。}_{日アメリカ合衆国公使館の通訳に就職, 差別的待遇を受けて憤り, 項羽の逸話から採った"楚人冠"の名を使い始める。

ピアノ産化・1900=28歳: 普通選挙期成同盟会に加入。仏教清徒同志会で機関誌{新仏教}を創刊,

田中正造直訴1901=29歳: 長女が誕生。自転車を購入し「老川遺稿」を編纂。肺炎カタルに罹り療養続く。

日比谷公園・1903=31歳: 長男が誕生。ベークマン「強肺術」を翻訳出版。池辺三山の招きで}_{東京朝日新聞}に入社。

日露戦争始・1904=32歳: 「余は如何にして社会主義者となりし乎か」を出版。トルストイの「日露戦争論」を全訳して掲載。

日露戦争終・1905=33歳: 二男が誕生。

満鉄発足・1906=34歳: 東北地方大凶作報道のため特派。朝日新聞社主催の満韓巡遊船を担当, 戦跡を回る。

韓国反日暴動1907=35歳: 三男が誕生。「肺病全快談」*特派員として渡英, 「大英遊記」を紙上連載, 軽妙な筆致で一躍有名に。

アヲボ創刊・1908=36歳: 四男が誕生。朝日新聞社主催(世界一周会)の会員を引率して渡米。「七花八裂」, 単行本「大英遊記」出版。

伊藤博文暗殺1909=37歳: 「半球周遊」。旧知の南方熊楠を紙上で紹介, 彼の神社合祀反対運動も伝える。漱石の交流深まる。

伊藤博文暗殺1910=38歳: 長女が病死, 五男が誕生。「属人属語」。同窓生と発案して母校中央大学に新設の新聞研究科の講師となる。

大逆事件判決1911=39歳: 池辺三山が辞職。新潟県各地を巡歴し「越後記・越後日記・越後案内記」。手賀沼を初めて訪れる。*諸外国

の新聞制度を取入れ, 日本新聞業界で初の索引部(調査部に改称)を創設し, 部長に就任。

明治天皇没・1912=40歳: 池辺三山が死去。六男が誕生。朝日社内の対立激化。手賀沼畔に別荘地を購入し{白馬城}と命名。

大正政変・1913=41歳: 慶応義塾新聞科で教える。「ひとみの旅」。手賀沼干拓計画に反対の投稿。

第一次大戦始1914=42歳: 「七花八裂」を改編した「へちまのかは」出版。第一次世界大戦発生でロンドンに特派され,

本格政党内閣1915=43歳: ベルギー皇帝に朝日新聞社長献上の太刀奉呈して, 帰国。{新仏教}終刊。「戦に使用して」。サンフランシスコ

での第1回世界新聞大会に日本代表として出席。中央大学での講義案を下敷きに名著「最近新聞紙学」,

民本主義・1916=44歳: 七男が誕生(翌年死去)。「弱者の為に」。{東京朝日}新設のコラム欄を「鉄帯」と改称し,

ロシア革命・1917=45歳: 投書も採用し始める。若い頃から, 送別会や披露宴の類を毛嫌いし, ほとんど欠席。

本格政党内閣1918=46歳: {大阪朝日}で筆禍の白虹事件起こり, その影響で{東京朝日}編集局長も退社, 自らも進退に迷う。

べんねん条約1919=47歳: 朝日新聞社が株式会社となり, 監査役に就任。ベルギー皇帝から勲章。}_{日本初の縮刷版の刊行を発案,

大暴落・1920=48歳: 伊東忠太との共著「阿修羅帖」(五巻)。「浜口梧陵伝」。

原敬首相暗殺1921=49歳: 「鼻のみどころ」。夕刊復刊し, コラム「今日の問題」担当。ホノルルでの第2回世界新聞大会にも日本代表。

水平社結成・1922=50歳: 長男が病死。*日本初の記事審査部設置に尽力し月報を公表。これらの施策は本来, 膨大な資料の効率的な

整理・保管により執筆・編集の煩雑さを軽減するために実施されたものであるが, のちに縮刷版や記事デー

タベースが一般にも提供されるようになり, 学術資料としての新聞の利便性を著しく高からしめる結果とな

った。{旬刊(週刊)朝日}創刊に寄与。グラフ局長に栄転し,

関東大震災・1923=51歳: 日刊(まもなく週刊){アサヒグラフ}を創刊。震災で二男・三男が死んで衝撃を受け,

護憲三派圧勝1924=52歳: アメリカでの排日移民法の施行に「英語追放論」と題する一文を掲載して, 同法を痛烈に批判。_大震災の体

験から, 千葉県我孫子の手賀沼畔の別荘{白馬城}に移り住み, 以後, この地を舞台に, {アサヒグラフ}にエ

ッセイ「湖畔吟」連載始めるなど, 多くの作品を著す。

治安維持法・1925=53歳: 「弱者の為に」を「白馬城」と改題。記事審査部が社長直属となり初代部長に就任。{東京朝日}の臨時用語調査

会委員長となり, 「正誤取消の規定に関する誤解」公刊。下村海南・石井光次郎と北海道樺太を巡遊。

円本時代始・1926=54歳: 手賀沼干拓計画に反対して保勝会結成にむけて活動開始。

金融恐慌・1927=55歳: 五男と香港・上海に遊ぶ。「新聞紙の内外」。小説「うるさき人々」を連載。ゴルフを始め,

共産党事件・1928=56歳: 六穴ゴルフ場隣に別邸{晩花林}を新築。「うるさき人々」出版し, 沢田正二郎一座・曾我廼舎五郎一座などに

より上演。下村海南と朝鮮満州を巡遊し, 張学良を取材。「湖畔吟」。昭和天皇即位大典に際し, 言論功献者

として金杯を賜わる。別荘の人々と連名で手賀沼干拓反対の陳情書を農林大臣に提出。

世界恐慌・1929=57歳: 「其の他」。_朝日常識講座第10巻「新聞の話」などで, 日本における新聞学に先鞭をつけた。

海軍軍縮条約1930=58歳: 夕刊コラム「今日の問題」が千回に。_創立に尽力してきた我孫子ゴルフ倶楽部が開業,

満州事変・1931=59歳: }_{湖畔吟社}を設立し, 句会, 俳句を通して地元青年と交流するなど, 別荘地我孫子の発展に貢献。

五一五事件・1932=60歳: 「続湖畔吟」,

国際連盟脱退1933=61歳: この年尋常小学校の唱歌として採用された「牧場の朝」の作者であることが没後に判明。

帝人疑獄事件1934=62歳: 記事審査部長を退任。秋田県八幡平登山途中落馬して負傷,

芥川直木賞始1935=63歳: 落馬記念句碑を建てる。「続々湖畔吟」「山中説法」「かにかくに」。*相談役に退き,

二二六事件・1936=64歳: 「和歌山方言集」「と見かう見」。

日中戦争始・1937=65歳: 「楚人冠全集」(全15巻)刊行開始。_顧問となる。

第二次大戦始1939=67歳: 日本新聞協会より永年勤続者として表彰。

大政翼賛会・1940=68歳: 母が死去。

日米開戦・1941=69歳: この頃, 鈴木大拙と深く交流。

・1942=70歳: 我孫子で文章会{湖畔文社}を始める。

創価学会検挙1943=71歳: 全18巻に増大された「楚人冠全集」が完結。

年金・総武装 1944=72歳: 出社中, 病に倒れ, その後自宅療養つづき,

敗戦・1945=73歳: 没した。

小林康達「楚人冠」, インターネットWikipedia,